

関ヶ原町 玉：堂之前地区

令和5年度

【地域の概要】

- 関ヶ原町は岐阜県の西部に位置し、町内全体が耕作条件が不利な中山間地域であり、管内の農地284haのうち66ha（R6.3）が担い手に集積され、集積率は23.2%となっている。
- 令和5年度より、地域計画の策定に向けた検討会が町内4地区にて実施され、各地区ごとにおける現状や課題を踏襲した未来の地図の作成が進められている。
- 玉地区においては、令和4年度より法人化した（農）ファーム玉を中心としてソバや水稲などによる農業経営が実施されているが、今回の堂之前・小畑地区においては、遊休農地が多く、担い手への集積も進んでいない現状である。

①取組開始前の状況や課題

堂之前・小畑地区の概要及び現状

関ヶ原町の北部に位置し、耕地面積が3.55haの地域である。

当地域には担い手が無く、所有者の高齢化が進み、耕作及び管理がされず、雑草・雑木が繁茂し、さらなる荒廃化が懸念されている。

地区外からの入作の受入れ

これまで、町内の担い手に限らず、当地で受け手を探索してきたが、貸借には結びつかなかった。



荒廃化している田の現地写真(一部)

②取組内容

受け手とのマッチング(R5.4~6)

企業の農業参入相談を受けるアグリチャレンジ支援センターから、新規で営農希望の法人の紹介を受け、法人、農業委員、町、県、センターが地域の現状と受け手の今後の展望を踏まえた検討会を実施。貸借を進めることとなった。

農地所有者などへの説明(R5.6)

農地中間管理事業と今後の農地の利用方法を町及び県、地区農業委員を介して、農地所有者16名と参入法人へ説明。双方の合意を得ることができた。

受け手への貸付(R5.12)

22筆 計3.07haを農地中間管理事業により参入法人に約10年間の貸付を行った。

③今後の展開と方向性

今後の展開について

利用権設定を完了した22筆については、今後麦やソバの作付けを予定しており、並行して水路などの農業施設の改修や獣害フェンスの設置を進めていく。すでに令和5年度11月より2筆で麦の作付けを試験的に開始し、今後残りの農地も麦やソバの作付けを進めていく予定である。



麦の試験的作付けの現地写真(一部)

該当地区と集積状況



集積箇所

【再生前】



【再生後】

